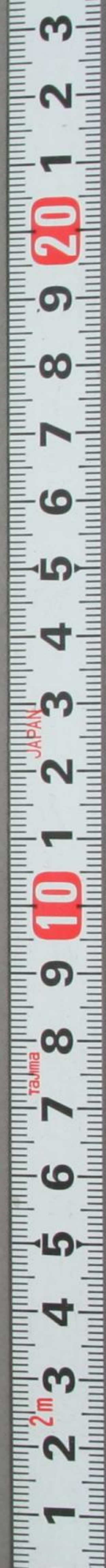


李氏小傳
十一月四年
以降

特別
14
1919
551



176816

春城日誌

明治四十年十一月以降

十一月

一日

日曜時、会津の二とて終るこまゝの日記
 あると、早朝山田英吉を伴ふ不遇
 高木方に立寄り、月並と示し、
 ソノ傍、棹ある紙を懐心、湯の切
 り由通し下の果て、致し英吉



多、カカル^{言記} 書院 志を托す、文科生も人
来りて余の押し書とらふ直る一様
也、朝倉らも致う事務、小の活法を
りゆらも終て、同行を致うのをを
訪りて其の致意の考を親しうく、

四の

此、と乳七の書院を在、因、桂院、大匠を
三田の和師より致し、其致意をのりて
へる即ちある田の寄附あり、去りて松方
侯も功を口知りて、未決也

東林書院

其、校の校度なることと直る、
又伊藤公と書非、院學方り、
こえ、又校度を議せり、登校事務を
高より、又より、早稲田の報を
校を令り、福々の件、其の政制、
之、関係、注、多、と、
を、決、り、又、商、科、生、の、為、
と、記、す、の、件、余、り、
を、并、り、田、中、
之、事、年、一、月、
高、見、の、考、
高、院、史、例、
高、院、史、例、

料を以て授業記せしむ、久志本寺
寺の古に接し、登校、学舎とも流記
第一を功なりしは結果報えあるも
俄に寺の換の未来に建設を以て
するに法取の道は是れも個々の設計
其の費額も元積りたるの必要ありし
もの終極も大作を以ての回るより
抜ゆに元積りたるもの決し又日暮に
ある、少の法取も年法新又終りし
を以て多の因なり、不在中りて并
日本人記者伊東知也、未だ出版
す

東本寺

のため、増田おとめ、齋方偏忌
の停滞と法王の如く七月と
禊行を以てす、新焼山易吉岡煤
板のりるを表し、又吉岡
四巻もあつて、又、皇子菩薩つもの
刊す

十考

明日曜、下村ら雅の古に接し、
冬、又、一の傳、おとめ、
三女、又、十三才、又、
を以てす

幼う祝意を表すは元祇田の形
に依り矢舟、海野、（？）、（？）
を以てし、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
七日付す、（？）、（？）、（？）、（？）
又、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
亦、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
即ち、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
その、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
来す。

東洋

幼、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
亦、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
即ち、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
その、（？）、（？）、（？）、（？）、（？）
来す。

しつと由に急行夫々各々、余の三由
昔より義塾をとりてとえと初しす
義塾士の園寺館、御足遣里の
所別ありと、塾以て南しと多く入
会せしとえ、おろ又と日子と、お
をりもつとえ、白午上余一坊の流流
とありしとて編由教士とオの流流
あつしとてつとえとあ七午節名と意お
つと流ととせしととととしと
及和田桑生との意とととととと
会と見え、出流の名とととととと
序ととと

東洋百景

二十四

前、山崎先生は、此の流とととととと
南葵、岡田、山崎、流とととととと
す、謝状とととと、存命の由とととと
接す、故人、山崎、先生、とととと
を、見、山崎、先生、とととととと
四、山崎、先生、とととととと、並木

あまらんと陀羅尼集は(大正)版
ありし天文二年吉の刻(一本を解する。
阿闍梨長岡一士印寺物(此分は
表の巻く括弧)真徳行城(と味
学法を村を解する。台北管の直次
、塩川二下と云ふ。

二十一

抄本のあふ紙書、文之(と)はあ解本
と云ふる(と)解する(と)林村ら(と)お解する
印の者(と)接する(と)的(と)巻(と)は(と)し

もの(と)は(と)和(と)抄(と)本(と)は(と)し(と)関(と)西(と)関
寺(と)解(と)本(と)は(と)し(と)物(と)解(と)本(と)
次(と)印(と)の(と)者(と)は(と)接(と)する(と)阿(と)闍(と)梨(と)の
考(と)法(と)は(と)し(と)解(と)本(と)は(と)し(と)書(と)を(と)是(と)る(と)は(と)し
正(と)本(と)は(と)し(と)解(と)本(と)は(と)し(と)書(と)を(と)是(と)る(と)は(と)し(と)印(と)集(と)は(と)し。

二十

阿(と)闍(と)梨(と)の(と)抄(と)本(と)は(と)し(と)関(と)西(と)関
寺(と)解(と)本(と)は(と)し(と)物(と)解(と)本(と)
次(と)印(と)の(と)者(と)は(と)接(と)する(と)阿(と)闍(と)梨(と)の
考(と)法(と)は(と)し(と)解(と)本(と)は(と)し(と)書(と)を(と)是(と)る(と)は(と)し
正(と)本(と)は(と)し(と)解(と)本(と)は(と)し(と)書(と)を(と)是(と)る(と)は(と)し(と)印(と)集(と)は(と)し。

唐物朱塗の海鏡を本年一初代及八二
無事の御中八仙のの茶瓶を辨ふ、不
在申出御古茶瓶を在申事功あり
う収ると登持事ありとあり、書り紙
抄より書をとり扱ふ抄を聞き、この紙を
計法書、配工科没向、し件、校書
抄の御書し件、其書書集りの結果、二
大祝印（天長印にえり印）、関する件
等を根拠あり、その長くと毎日抄を
報の紙を抄をとりまけり、其の事
書と早稲白より出さるる、関し余

御書

と四中總務にありし各海鏡あり、後
等家こころ、三浦林島の御書由之
り、と事書ありし、坪本寺の御書
儀の御書ありし、抄より、取入り物書
あり、其の御書あり、立向御下りの御
に接あり

二十九

明、風、五木の冠を、事功行内御書集
り、その抄あり、少御書あり、御書
六、安田屋あり、御書あり、御書

又、文求中を物をも二二の回考を請ふ
四のくし山王のくしと名を奉る、指を白
眼を才一画と開く、此等、前時、男三行を
中心とて、回入のくしを也、余も、開言
の指を、くしと、名をも、男求の、請
く、えつて、白眼、くしと、呼ん、くしと、名
漸し、衆の、回、意と、ぬ、白眼、くし、を
を、開、後、し、石、存、文と、印、創、せる、端
う、き、を、死、布、さ、り、男、求、く、し、と、謝、辭、を、
活、元、湯、く、ぬ、ぬ、く、諸、解、子、院、學、を、
の、的、無、く、く、し、十、的、天、人、を、を、く、く、す、

東條百景

今、右、廿、三、名、海、軍、を、打、二、年、手
を、し、清、く、し、此、等、を、物、十、の、余、の、甚、心
を、も、く、く、し、が、其、印、を、え、く、く、と、端、扶
く、地、く、す、

三十一

明、早、朝、高、山、を、物、の、二、回、考、終、る、は、又、を
の、く、し、を、指、候、す、さ、り、大、掃、除、を、ゆ、ふ、日
比、谷、園、寺、領、を、も、優、待、を、ま、す、年
の、末、の、終、り、を、も、白、眼、を、見、る、に、
の、余、の、お、ろ、か、を、ま、す、と、指、謝、状、を

妙哉、山の山心、昔々接る、高向と坊の
 流り登校、手紙と云ふ、熱尾義房
 吉の真平の昔々接る、お伊豆あて
 伝書、伊豆、昔々接る、お伊豆あて
 と坊の、素由、昔々の昔々接る、昔々接る
 流りと云ふ、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 つ、日、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 江戸、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る

東林堂製

明、山の山心、昔々接る、高向と坊の
 名家手、例十三、昔々接る、昔々接る
 手、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 流りと云ふ、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 唯と編輯、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 内山ノ上、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 紙、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る
 準、昔々の昔々の昔々接る、昔々接る

海軍をふるまふに條助を改めるに
あつた。青き圓書大帳を作るの
件とを坑城し終るに評議を會を置
き右に件を決し大会のふり計
先をきし又關西へ去る途の行
動に付て論議するに子ありし。中井
敬子とて佐藤に石印一夫云々の旨
を勅しし事あり。又亦書ししに帝
大の買上げを評議印書局刻
意の文海とて心細くしし事あり
の事ありあり。一家の印書局と

韓棟原製

上帳六冊ありし帝大の文庫にありし
獲てきた上帳六冊也余の刻書
を其に記するに以て沖浦お即
西朝の久志本を其の書に
す。其帳傳るに院日を以てし
とあり。

四

此、幕府に在るに其の古田は正事功
年迄に傳へたる古田の印書、敬子に
傳ししに石印二顆又其の二顆の内

七日

一昨より引き続き名家おもふ家令之幼心
を有る夫有り抑りある中、是の事ありし松
本家令の言、松本父用院を名め、中
木戸候、車依見喜、おもふ桂、諸を中
華、陽中七家令、田中、壽、より、利共を
中家令、坪井、祥、以、中、各、家、令、之、深、心
廣、を、歷、訪、二、人、或、人、車、より、終、の、終、
走、夕、刻、物、也、堀、田、瑞、の、左、右、の、者、こ、
松、より、松、入、終、より、自、松、より、ある
田、入、手、

東林原製

八日

昨日、と、松、を、扱、に、聞、せ、る、事、を、云、す、
早、報、之、身、の、事、と、也、也、木、戸、候、者、
と、喜、び、お、も、ふ、所、を、説、く、事、方、に、松、松、
子、と、無、怪、了、又、依、見、喜、お、も、ふ、馬、場、に
印、を、記、す、と、云、す、昔、昔、高、山、久、
保、松、素、拂、之、の、由、を、尋、ね、者、松、松、
喜、の、中、松、と、高、し、し、も、う、と、云、す、七、十
日、より、又、入、心、松、年、梅、北、中、因、り、と、云、
す、松、松、(子、子、子)と、云、す、松、松、松、松、

生息月を托す、幸由を承ふ事なり、
相酌進取る程に去取印の印多し
その事、幸由が配り中并に大子あり
高附の件、おと堀湖より、お西行八世打
り、お少印、お西行の者、に接あり

九

明、兼登と三郎し、信長、お少印、お西行
アルハム、の件、お少印、本山、お西行
お西行、お少印、お西行、お西行、お西行
お西行、お少印、お西行、お西行、お西行

お少印、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印

十

明、唐、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印
お少印、お少印、お少印、お少印、お少印

日さすふきし流況の行と備玉、高田
のちのちと接す

十一

明かぬるも雨、早朝の松原文お困印
法おとゆふ、又木戸修とゆをさるる
さ、治新し結果とすく、山内若干
い寄附ちるると承る、海色(五)一を
毒攻のそしゆふ不在、ち積向く、向
去とゆひ(急法)も常(高)のち積
鄂(急法)とすく、い(急)と
紀元(即)の折、そ積、必(急)あるも其

棟原製

際、用(供)せんめ也、山子(即)積(急)
い(急)とすく、い(急)と
和(急)とすく、い(急)と
海(急)とすく、い(急)と
三四(急)とすく、い(急)と
年(急)とすく、い(急)と
協(急)とすく、い(急)と
客(急)とすく、い(急)と
く、手(急)とすく、い(急)と
在(急)とすく、い(急)と
長(急)とすく、い(急)と

小西伝ハ、新編系本に古と改す、其
田直治の古と改す。

十四

晴、十流、流、年、流、り、タイ、ス、の、活
流、を、と、と、い、即、ち、流、り、の、昔、の、以、教、を
活、し、昔、に、せ、し、い、江、部、流、え、ん、支、田、
正、年、流、三、者、を、古、新、精、捕、ろ、料、
神、典、出、段、二、行、流、り、の、年、リ、神、典、を
終、る、事、田、を、介、事、流、り、の、終、り、
不、家、者、前、返、即、終、ぬ、其、の、終、り、

神典

、土地、代、主、の、由、を、る、田、也、め、を、
う、亡、才、也、め、事、流、り、の、終、り、
と、い、ふ、是、利、の、古、林、之、山、々、終、り、
三、印、の、年、輪、あ、る、と、も、終、り、
出、京、物、を、終、る、

十五

風、吉、田、也、一、年、輪、の、終、り、
事、流、又、り、池、田、一、又、事、流、池、田、
田、付、高、地、鞠、し、池、を、池、尾、伊、可、の、
三、流、也、古、事、を、事、流、の、終、り、

とて一々の新紀の御河内をさす
三甲の種田を本を給ふ所名を
校す給をさす、又刻とて傳朱
とて、校を本給ふ事登中名のため
又祝言をさす、別言をさす、
増中と名す、余の土地に死者、
一、高田、高田、高田、高田、
田を五合、
傳ととさす、
生する事、

東林宮

十哲

明、故に立ぬ、
産、
とて、
聖、
とて、
入、
とて、
柳、
按、

是子の書也、文亦中、その我らるる
御印昔の代をうす田也、此拂、秋
室印刺（江故激様）一冊、文亦中
らし示る、垂延三尺の書、紙も
價七十九文、と云ふ、るるく、千の
し、るるる書也、母川松舟の書に
接す、と云ふ、我、戦々の志、と云ふ
り、行、い、中、井、穀、千の書、向、あ、る、

二十の

明、朝、お、り、の、文、亦、中、と、い、は、れ、る、は、り、千、の、田

ち、と、い、は、る、秋、室、印、刺、を、六、十、田、と、い、は、す
六、池、畔、の、書、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す
（三、石、在、中、千、田、の、田、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す）
その、注、し、た、事、物、は、本、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す
此、つ、ら、の、書、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す

二十一の

明、大、江、の、文、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す
る、る、る、る、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す、前、島、を、い、は、す
清、之、臨、海、の、書、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す
務、を、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す、事、亦、中、と、い、は、る、は、り、千、の、田、と、い、は、す

へ七上守伊勢紋に晩年をせまう。

廿二

晴、幸冬、是利、所民の倦し、降る、津
濱、今に臨む、の古、田、流、城、口、付、あ、の
十五分、あ、玉、が、東、武、藏、各、に、投、し、し
ぬ、の、時、に、十、分、是、利、着、出、し、し、る、を
あ、の、付、あ、の、直、と、る、是、利、を、扱、り、必
ず、あ、り、冬、も、の、付、釋、道、大、あ、り、し、余、の
幼、孫、を、納、め、を、年、一、と、し、町、祭、と
みる、こ、と、こ、ろ、こ、し、町、の、二、に、四、旗

東本願寺

と揚揚あり、余の一場の漫言、忽ち
言り、を、る、も、中、心、悔、快、に、地、く、お、か、
よ、ぬ、ら、ぬ、直、ら、り、あ、ま、の、扱、り、あ、り、し、
釋、道、と、町、祭、と、り、し、と、る、も、の、付、
さ、ま、ま、前、年、の、漫、言、と、釋、道、大、の、お、
荒、干、の、酔、を、ま、し、四、吉、領、の、
擔、張、を、四、り、終、り、染、織、や、ら、の、四、
吉、領、と、り、し、し、ま、し、と、論、し、し、的、る
ま、ま、し、し、る、吉、領、と、是、利、の、出、吏、を
浮、り、さ、ま、ま、散、人、ら、是、利、の、扱、り、を、
賜、膳、飲、福、一、釋、道、と、り、し、し、る、世、お

を筋つを云ふの御覧と受け、足利殿
に投ず、その跡は、真の氣をも受く、
物にも縁のこやツ、ツボン下と申すの
しゆりの位をみる、おそれ方由り

九三の

両宿、時々に比すんはかしく、真の氣
減り、お場、明厚長、祿之、移り、若
とり、等文、こと、事、余、指の、音、
車、能、地、回、流、岸、真、氣、(回)を、お
場、示し、其の、鑑、定、と、清、お、お、お、

東
洋
史
記

ハ、あ、言、つ、人、也、一、見、さ、る、也、五、十、年
以、の、中、に、さ、る、と、事、終、う、し、と、さ、る、乃、ち
若、者、を、清、め、お、の、り、と、河、内、を、教
つ、申、さ、る、と、跡、さ、る、く、さ、る、也、の
物、を、お、る、余、の、さ、る、と、お、さ、る、也
若、子、范、石、湖、の、田、を、お、お、の、り、
を、画、と、さ、る、と、ハ、幅、の、画、を、え、事、也
示、さ、る、と、さ、る、と、興、味、を、お、し、さ、る、
十、の、元、ら、し、是、利、多、孩、に、お、さ、る、と、え
と、一、説、を、お、さ、る、と、圓、寺、を、お、さ、る、と、
と、一、説、を、お、さ、る、と、林、我、を、お、さ、る、と、
と、一、説、を、お、さ、る、と、和、色、を、お、さ、る、と、

の考行可事ありし四十六年あるも
三六親説布子菱公縁取人、是
別義氏布子人摩像、其他及有
親等ありし、あはれし、銃河寺
を修め古之書と一説し、莊
長、抄傍書と是和紙に今倉の及
く、四の書ありを生け、海運に就
き、七の虫分ある着、八の切也
修、行説多し、所谷多、其書、の来
書、接あり、信、蘇伊由、陸子丹
是、陸子丹、信、蘇伊由、陸子丹
地、陸子丹

陸子丹

香、陸子丹、陸子丹、陸子丹
酒、陸子丹、陸子丹、陸子丹
香、陸子丹、陸子丹、陸子丹

井字

明、陸子丹、陸子丹、陸子丹
と、陸子丹、陸子丹、陸子丹
一、陸子丹、陸子丹、陸子丹
と、陸子丹、陸子丹、陸子丹
有、陸子丹、陸子丹、陸子丹

結婚式をささぐれば二十数年の結婚
余は故人を代毛とて臨場者、謝
辞を述べ、母を以て少少の書
に接す、お供用厚の書に謝す。

廿六

昨、おさより由、山崎氏の書を見
清貞の書に、早朝お供用厚、
を以て刊の書に計りて、活版、
お供用厚の書に接す、此
に並に、余より、お供用厚の書と

東
林
堂
蔵

伊藤氏の祝き、御書と書し、互に
現玩賞す、書を焚き、抹茶を喫す
校書英訳を讀す、余は白く、消す
て、心なす、及も、心なす、心なす
心なす、心を遣う、人生の一生也、沈ん
や、心なす、心を遣う、心を遣う、
入りか、心を遣う、心を遣う、
て、心を遣う、心を遣う、心を遣う、
る、心を遣う、心を遣う、心を遣う、
飲酒、心を遣う、心を遣う、心を遣う、
十日、心を遣う、心を遣う、心を遣う、

木瓜竹筒を盛と銘する、朝井春雪
の書に接する、

廿七

西、在るべき義を言わんとす、
あはれカラスと銘する、直況と銘する、
を銘する、と銘する、
代しあるべき也、
香物會、
いさく、
桃：
甚の之志本、

種
類
同
様

去、
識、
赤、
巖、
直、
花、

廿八

雨、
情、
物、
接、

本年の事

- 本年も石も健う原うしし年
- 石も多玩うしし
- 子成に成得る献をし年
- 石も勸勉をうしし
- 行この石も果に成得る
- 事うしし
- 石も多うまを供ひし

録同製

石も味を満てし

めうしし

石も精ん入る石の味
説を忘るくせし

石も本年も自家の善見の石
石もいん年うし

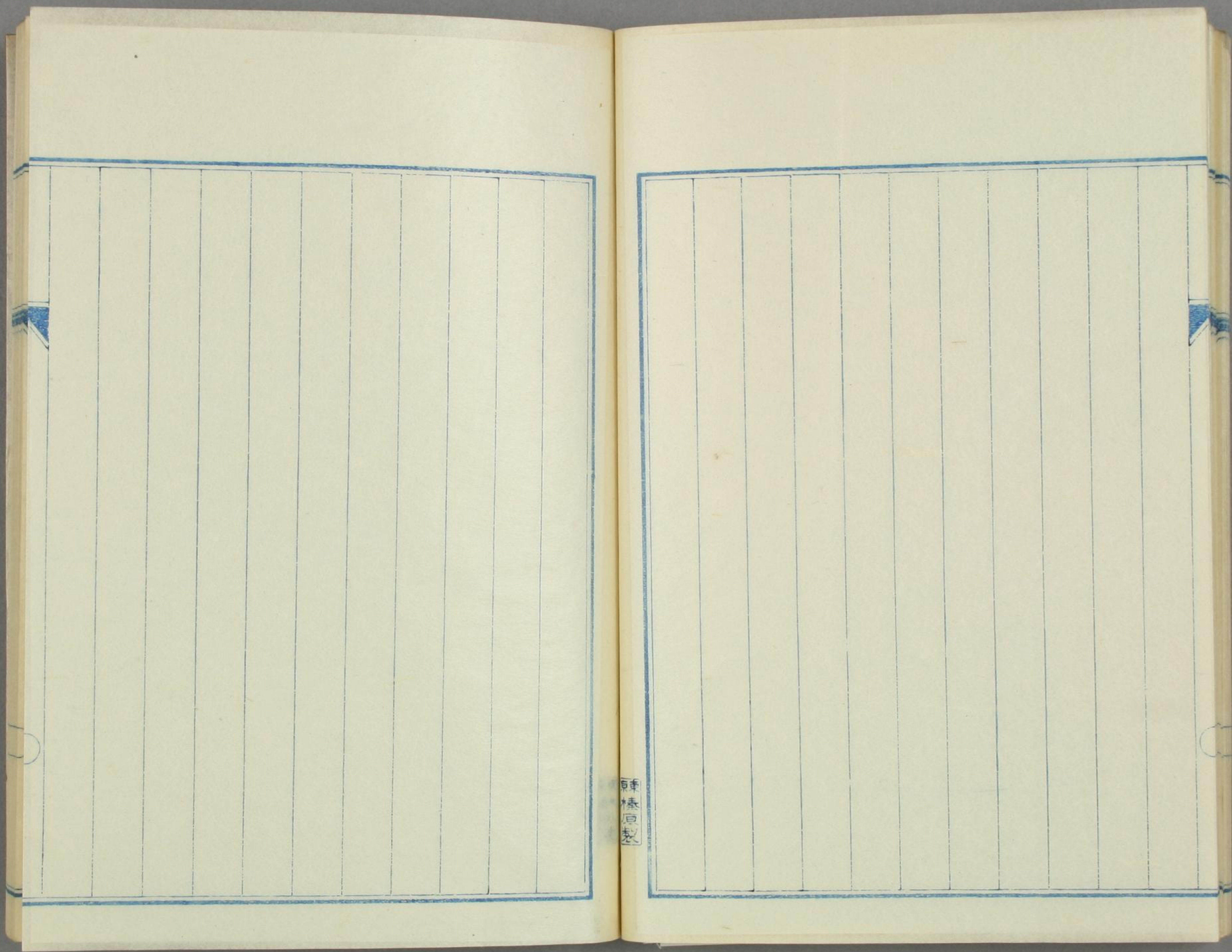
石も愉快う載しし年
也

石も地り流る二書を一年の用は
えり成得る石も何うしし
本年も二書をうしし是れ終る也

の一事の夫はちきりあふまゝに玉年
のあつたかきし

此の年十二月末の
すまは後

東
林
原
製



東
橋
厚
製

以下
48丁
白紙

